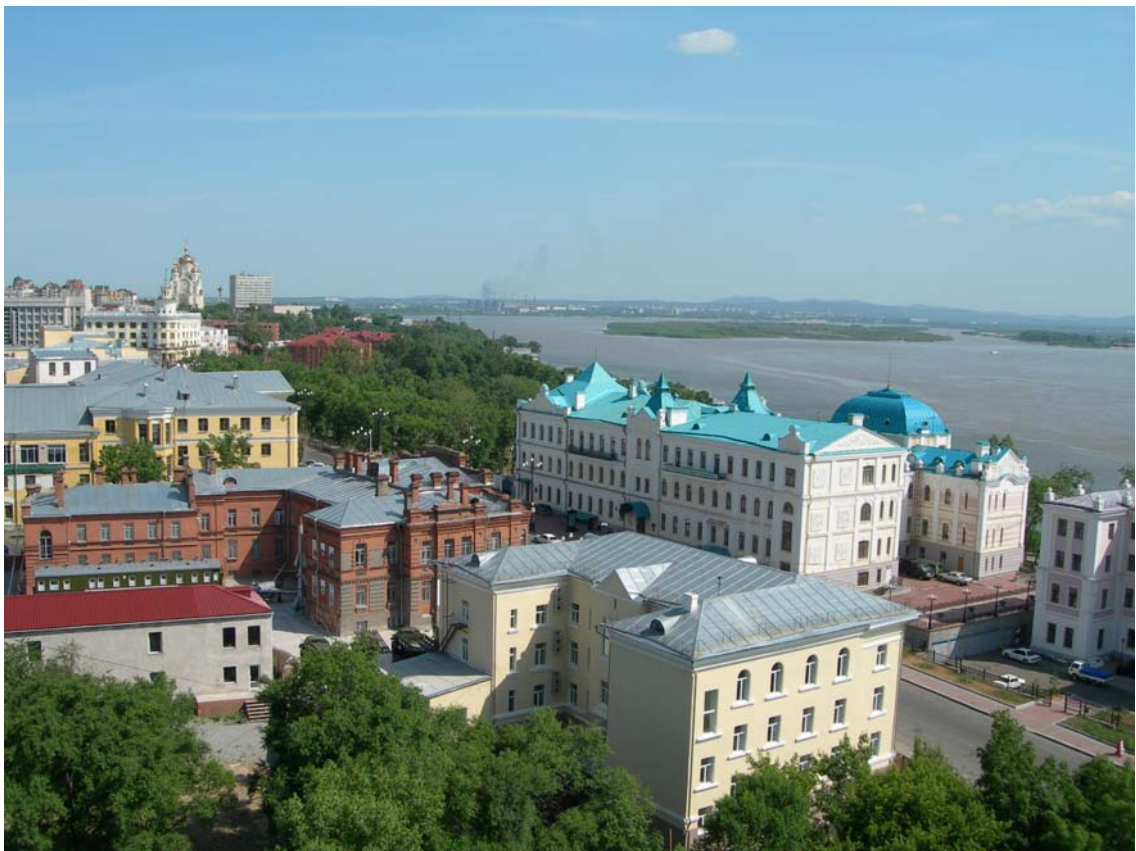


～ハバロフスク～ ～ハバロフスク～



ハバロフスクは、別名「黒龍江」と呼ばれるアムール河畔に開かれた極東ロシアの中心都市のひとつです。1649年探検家エロフェイ・ハバーロフがこの地に到達したことに因み、ハバーロフの町・ハバロフスクと名づけられました。市制100年の歴史を有し、交通の要所として沿海州の産業、文化、教育の中心的役割を果たしながら発展しました。鉄道技術大学、医療大学など19の高等教育機関があり、市の発展を担う人材を育成しています。アムール右岸の丘陵にあり、坂道の多い町ですが、石造りの建物が多数落ち着いた町並みとなっています。



○アムール河展望台と河岸遊歩道



振り返れば、中国からアムールの支配権を奪い返した総督、ムラビヨフ・アムールスキーの巨大な全身像を仰ぎみることができます。

文化と休息の公園の東端からアムール河の川岸通りを横切ると、この辺りで川岸が一番隆起している丘の上があり、そこにアムール河展望台が建っています。天気がよければ、前方に中州、さらにその奥に中国側の対岸、右手にシベリア鉄道の鉄橋、左手に遊覧船の船着場などを望むことができます。

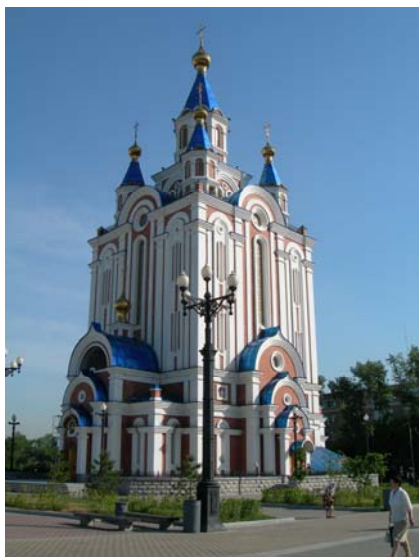


○コムソモール広場からムラビヨフ・アムールスキー並木通りへ

コムソモール広場にはソ連邦崩壊後に建てられたロシア正教会があります。現在、ハバロフスク市内にもロシア政教教会が次々の建築され、地元ロシア人らの信仰を集めています。

この広場からレーニン広場を結ぶ通りがムラビヨフ・アムールスキー並木通りです。

この街の目抜き通りであり、デパート、レストラン、酒屋から映画館、役所まで揃っています。



○レーニン広場

市の中心部にある広場で、広場の中央にレーニンの銅像と噴水があり、公園の周囲には医科大学、ホテルや電信電話局などがあります。

夏には綺麗な花が咲き、噴き出す噴水で人々が涼を楽しむ風景があるこの広場も、冬には氷祭りの会場となり、クリスマスシーズンには大きなモミの木が飾られます。



○駅前広場

シベリア鉄道も停車するハバロフスク駅の正面には、1649年にこの地を最初に探検したことに因んで町の名になった探検家、エロフェイ・ハバーロフの銅像が立っています。駅舎の正面の壁にはモスクワの時間を示す針を加えた三本針の時計が架けられています。因みに、ロシアの鉄道(近郊列車除く)は、すべてモスクワ時間で表示されています。

ご旅行中にはご注意を。



○中央市場

アムール並木通りがレフ・トルストイ通りと交差するところにある市場で、野菜や果物、肉類、乳製品から衣服や電気製品まであらゆる家庭用品がとごろせましと並べられています。外国人用のお土産屋さんとは違い、庶民の生活ぶりが伺えて興味深い場所です。



○国立極東博物館

1894年に創設されたこの博物館には、極東、沿海州の自然や歴史、風俗に関する豊富な資料が展示されています。有史以前の岩石に描かれた絵、ニブヒ族の魚の皮から成る衣装その他の道具、世界に五つしかないと言われるステラー牛の骨の化石、ウスリー虎の生態などは必見です。



○極東美術館

アイコンや 19 世紀～20 世紀初頭のロシア美術(プーシキンの絵画含む)が興味を惹きます。他にも、現代画家の作品や民族細工も展示しています。



極東美術館



軍事博物館

○軍事博物館

極東地域を主とした軍の歴史を紹介しています。屋外には戦車や戦闘機も展示しています。

～ハバロフスク郊外観光～

○ナナイ人村シカチ・アリャン

アムール川流域に住む少数民族ナナイ族の豊かな文化に触れるチャンスです。シカチ・アリャン村の近くでは 1 万 3 千年前のものと思われる岩絵をみることが出来ます。村に住むナナイの人々は、魚皮の加工



の秘密や木彫りの作り方を教えてくれます。シャーマンの儀式を見学し、ナナイ人家庭を訪れ民

族料理を食べることが出来ます。ナナイの民族衣装を身に着けて撮った写真はいい思い出になります。



○シベリア鉄道(郊外列車)とユダヤ人居留区の面影を残すピロビジャン

ピロビジャン市へはシベリア鉄道の郊外列車や、バスを利用して日帰り旅行が可能です。ユダヤ人の習慣や生活様式や文化を味わうことができます。



郊外列車車内風景



ピロビジャン駅舎



ユダヤ人の文化を伝える博物館